



創立 30 周年を祝して

道路新産業開発機構が、創立 30 周年を迎えるに当たり一言お祝いを申し上げます。

貴機構は、昭和 59 年の設立以来、産官連携の中核機関として、道路に関連する新たな道路機能の開発とその実現に向けての各種調査研究を行い、さらにその成果に基づいて事業を推進する多くの団体の設立に関わるなど広範な事業活動を行ってこられました。

特に VICS や ETC の実用化及びその普及に多大な尽力をされる等 ITS（高度道路交通システム）をはじめとする道路機能の発展に大きな役割を果たしてこられました。

昨今の道路行政を取り巻く状況を見ますと、戦後本格的な道路整備計画である第一次道路整備 5 ヶ年計画のスタートから 60 年が経過し、世界にも類を見ないスピードでの少子高齢化の進展と人口減少やそれに伴う労働力人口の減少、社会インフラの老朽化、大規模災害のリスクの高まりなど我が国は様々な課題に直面しております。

今後は、「コンパクトプラスネットワーク」をキーワードとし、今後の国土づくりの理念や考え方を示した「国土のグランドデザイン 2050」に基づき、拠点をしっかりつなぐネットワークの整備を進める必要があります。また、整備した道路を賢く使うため、ITS スポットを通して収集される経路情報をはじめとしたビッグデータを活用し、高速道路の賢い使い方を可能とする「ETC2.0」の導入など既存ネットワークの最適利用を図ることが重要です。さらに、高度成長期以降に集中整備された道路の老朽化対策・長寿命化や、今後想定される南海トラフ地震、首都直下地震等の大規模災害に際する速やかな道路啓開、被災時の迅速な情報収集・提供なども重要な課題であり、体制の構築など必要な対策を推進する必要があります。

このような中、道路行政を的確に展開していくためには、将来の新たな国土、社会、暮らしを念頭に道路の役割を考え、対応していくことが重要であり、産官連携の中核機関として先進的な道路機能の調査研究や、海外展開を視野に入れた国際標準化活動など貴機構が果たすべき役割はますます大なるものがあります。

これまで培ってこられました成果をさらに充実させ、時代の要請に応えていかれますよう、30 周年を迎えられた貴機構の一層のご尽力を期待いたしますとともに、今後ますますのご隆盛を祈念いたしまして、お祝いの挨拶といたします。

国土交通省
道路局長 深澤淳志